

○宮崎県環境影響評価専門委員会 議事概要

(日 時) 令和3年1月7日(木) 13時～14時
(場 所) 県防災拠点庁舎5階52号室
(出席者) 環境影響評価専門委員会委員 9名(10名中) ※4名はオンライン参加
事業者 9名 ※5名はオンライン参加
事務局 4名

当委員会は、令和2年12月3日付けで、「国道10号住吉道路(都市計画道路住吉通線(仮称))」の環境影響評価方法書に関する環境の保全の見地からの意見について、知事から諮問を受けた。知事への答申を作成するため、以下のとおり委員会を開催した。

1 開会

2 環境管理課長挨拶

3 議事

「国道10号住吉道路(都市計画道路住吉通線(仮称))」の環境影響評価方法書に関する審議

- (1) 事業概要について事業者からの説明
- (2) 各委員の事前質疑・意見に対する事業者からの回答
- (3) 質疑応答
主な意見、質疑は以下のとおり。

(会長)

出席者名簿順に、方法書に対して意見・質疑がある委員は発言をお願いしたい。

(A委員)

- ・ それぞれの項目に係る環境影響評価について、「影響が懸念される場合は環境保全措置を検討」と記載されているが、予測結果に対して住民の納得が得られるような、透明性をもった調査、予測及び評価を行っていただきたい。

(B委員)

- ・ 石崎川における水質測定結果で大腸菌群数の数値が高い理由として、畜産や生活排水の他にも要因が考えられるようだが、事業実施に伴う工事が原因ではないことを示すためにも、原因を調査しておく必要はないか。
→県環境管理課では公共用水域の水質の測定を行っている。
大腸菌群数の数値が高くなる理由については、畜産業等が原因で河川が汚染されることが考えられるが、先日の現地調査で周辺を確認したところ、他の要因は考えられないと思う。(事務局)

(C委員)

- ・ 大腸菌群数の数値が高くなる要因として、畜産業や生活排水、農地の土壌に由来するものが考えられるが、本事業の工事による影響があるとすれば、農地の土壌によるものだけだと思う。
工事や道路建設では、生活排水系や畜産農家の増加に関しては、恐らく逆の方向に動くと思われるので、工事に伴い農地が攪乱されて出てくるとしても、そんなに極端に出てきて大腸菌群数の数値に影響することはないと思う。

(D委員)

- ・ 文化財への影響調査について、「実行可能な範囲」で回避・低減するよう検討されているが、具体的にどのような検討か。
→ 現在調査中だが、把握している範囲で、現存する埋蔵文化財を避けるルートを検討している。今後、事業を進めていく中で調査を行い対応していく。(事業者)

(E委員)

- ・ 動物のロードキルについて、周辺道路でロードキルが発生した件数等は把握しているか。
→ 周辺の国道219号線において、ロードキルを確認している。(事業者)
- ・ そのような情報も踏まえて、ロードキルの予測及び評価を行っていただきたい。
(平田委員：D委員)

(F委員)

- ・ 動植物の現地調査については既に開始しているようだが、どのような方が調査しているのか。
→ 有識者の同行のもと、専門の資格をもった方が調査を行っている。(事業者)

(会長)

その他に、意見・質疑がある委員は発言をお願いしたい。

(A委員)

- ・ 方法書手続と準備書手続を手がけるコンサルタントが異なるため、本審議でのやりとりを文字化して、準備書手続を行うコンサルタントに伝えていただきたい。

(G委員)

- ・ 本事業により動物の移動経路が分断されないよう、横断ボックスの設置が検討されているが、何箇所に設置する予定か。
→ 現在ルートや道路構造を検討中であるため、横断ボックスの具体的な設置個数は示せないが、周辺には農道や市道が多く存在しているため、その分、多くの横断ボックスの設置が必要になると考えている。(事業者)

(H委員) ※ 質疑等なし

(I委員) ※ 質疑等なし

(4) 委員協議

質疑応答を踏まえ、委員による協議が行われた結果、以下のとおり答申の内容をまとめることで合意が得られた。

ア 本会議の意見交換のほか、本事業に対して委員から会議前に提出された事前質疑や、宮崎市及び県関係各課から提出された意見を基に答申を作成すること。

イ 答申の素案を事務局が作成し、事務局から各委員に素案を提示する。

ウ 最終的な細かい表現等の調整は、会長及び事務局に一任する。

4 閉会